白飯

儲君如形聞食之、上皇（後鳥羽）有御氣色、次入御、

〔武者物語下〕古き侍の物語にいはく

北條氏康公の御まへにて、御嫡子氏政公、御食の御相伴をなさるゝ時、氏康公御覽ありて、御なみだをながし給ふ樣は、北條の家は、われ一だひにておわりぬるとの仰なり、氏政公は申に及ばず、家老衆までことゞく興さめがほにならるゝ、其後氏康公のたまふは、たゞ今氏政が食物用ゆるをみるに、一飯に汁を兩度かけて食する也、およそ人間は、たかきも下きも、一日に兩度づゝの食なれば、是をたんれんせずといふ事なし、一飯に汁をかくるつもりをおぼえずして、たらざるとて、かさねてかくる事不器用也、朝夕なすわざをさへつもりならざる間、一皮うちにある人間の心底をつもり、人を目利せんことは、未來永劫なるまじきなり、略中さてこそ北條の家は、われ一代にておはりぬると宣ふと也、

〔常の食喰樣曳歌〕食にしる先はかけぬと思ふべし上客かけば我もかけべし

〔名物六帖飲膳飲食穀核〕白飯（シロコノシ）

〔本朝食鑑一穀〕稻訓二伊禰一

集解略中本邦之俗、以米飯爲食之先務、肉菜酒醬爲之助、所以不敎肉勝於食之氣乎、

〔守貞漫稿後集食類〕飯略中

今三都ドモハ、皆各粳米ヲ釜中ニ炊ギ、更ニ他穀ヲ交ヘズ、鄙ハ米ノミノ飯ヲ食ス所モアレドモ、多クハ麥ヲ交ヘ食ス、粳一種ノ釜炊飯ヲ俗ニコメノメシ、又シロメシトモ云、赤飯ニ對ス言也、

〔倭名類聚抄十七米〕鑿米　唐韻云、鑿（鬷洛反、與作同、楊氏漢語抄云、鑿米、萬之良介乃與禰、）精細米也、

粺米　楊氏漢語抄云、粺米（粺音傍卦反、去聲之輕、與把同、和名之良介與禰、）精米也、

〔書言字考節用集六服食〕白米（ハクマイ）又云（シラゲ）精米